

| | |
|------------|--|
| 標 題 | 宍道湖西岸地区大区画ほ場整備に係る営農支援活動報告その4 ～多収穫米・小豆の現地検討会の開催～ |
|------------|--|

(ダイジェスト)

宍道湖西岸地区では、大区画化ほ場整備により導入・普及拡大を目指している「小豆」及び「多収穫米」の現地検討会を開催しました。

検討会では生産者及び関係機関・団体で実証ほ場を巡回し、作物の生育や実証試験の状況等を確認しました。

宍道湖西岸地区では、大区画化ほ場整備により、「担い手のコメの生産コスト低減」及び「高収益作物等の生産面積拡大」の課題を解決するため、近年外食や中食の需要の増加により求められる多収穫用品種を含めた業務用米や、県内外の実需者からニーズの高い小豆の導入・普及拡大を目指しています。

このことから、8月26日に宍道湖西岸地区の営農組合や関係機関を対象とした現地検討会を開催しました。

「多収穫米」では、コシヒカリを短稈化した耐倒伏性の高品質・良食味品種「コシヒカリつくばSD-1」や耐倒伏性や晩植適正を持ち稲と麦作の2毛作に適する多収穫用品種「ほしじるし」といった新品種や、既存品種「きぬむすめ」の多収実証のほ場を巡回し、生育状況や品種特性等を確認しました。

また「小豆」では、主に新規除草剤による雑草対策実証ほを巡回し、実証状況の確認を行いました。担当生産者からはほ場の生育状況を、普及部から除草剤の適期散布のポイントを説明しました。

大半の生産者からは「昨年までと比べて除草の効果は高い！」という評価があった一方、「適期散布のタイミングが難しい」という声も一部聞かれ、課題も残りました。

普及部では今後も実証ほ場を活用しながら課題を整理し、次年産に向けて栽培マニュアルを整備し、技術普及を図っていきます。



多収穫米現地検討会



小豆現地検討会